

# 北朝鮮情勢を読むーピョンチャン五輪後の朝鮮半島

拓殖大学大学院特任教授 武貞秀士

## 1 南北首脳会談はなぜ決まったか

- (1) 北朝鮮、冬季五輪参加に込めた3つの狙い。「南北関係改善」で「米朝協議開始」に結びつけ「対北制裁の形骸化。軍事演習牽制」を図り、米国の軍事役割解消へ
- (2) タイミングを決めた3つの条件。「11月29日の火星15発射」「昨年6月以降、文在寅大統領が五輪参加を説得」「昨年の米朝接触、7回だが非核に膠着状態」
- (3) 文在寅政権の思惑は？昨年5月、選挙公約は「一年以内に南北首脳会談」。米国、中国の北朝鮮問題関与に反発。金大中・盧武鉉時代の統一政策の伝統あり。冬季五輪参加のために1年前から南北は接触してきた。「同じ民族だから説得できる」

## 2 ピョンチャン五輪大会は何をもたらすか

- (1) 南北首脳会談へ。金永南・常任委員長、金与正氏の韓国訪問。韓国の特使団の平壤派遣。南北は「統一に向けて本音を語り始めた。日米は「非核」にのみ焦点
- (2) 北朝鮮高官、選手団、管弦楽団派遣で「北朝鮮旋風」は不発だが、「南北問題には周辺諸国を関与させたくない」という韓国の民族主義を鼓舞。文在寅政権の支持率は上昇。「北朝鮮選手団にそれほど大きな違和感はない」（韓国女子ホッケー選手）
- (3) トランプ大統領の方針は、「核兵器放棄の意思確認」「対話と圧力、2つを準備」。南北対話進展を見て、米国は米朝対話再開に傾斜
- (4) 安倍首相の訪韓で日韓首脳会談。金永南・最高人民会議常任委員長との会話で日本の立場を説明。南北対話の進展は「非核」を目標にすべきという発言
- (5) ロシアと中国はピョンチャン五輪外交を静観。火中の栗を拾わず。南北対話歓迎

## 3 朝鮮半島、危機のシナリオと日本の課題

- (1) 最悪のシナリオは、南北対話進展と日米の制裁強化が並行。米韓軍事演習継続。ミサイル発射、核実験実施で、米国が軍事攻撃というシナリオ。偶発戦争の危険あり
- (2) 北朝鮮のミサイル技術向上も、大気圏再突入後、核弾頭が炸裂する技術は未完成
- (3) 中国、ロシア、韓国、北朝鮮は対話を通じた問題解決を模索。日米と温度差拡大
- (4) 2018年は北朝鮮の建国70周年。金正恩委員長の体制は強化されつつあり、対米、対南関係で「成果」を必要とする金体制。北朝鮮は主導権をとり続ける。
- (5) 2019年は「1919年3・1運動」から百周年。韓国は日本との対決姿勢を強める。今年3月1日、文在寅大統領は日本批判演説
- (6) 日本の課題。拉致問題では「ハードル」を下げる。南北、米朝と並行して日朝協議を開始する。「統一するまで核兵器を捨てない」北朝鮮とどう向き合うか。通常戦力強化による抑止力向上が喫緊の課題